



チャレンジ！ ふるさと・キャリア教育

～枝豆作りから成章フェアまでの取組～

大館市立成章小学校 教諭 高橋 令 人
教諭 嶋 田 賢 一

1 はじめに

児童の課題として「人との対話や人とのやりとりが苦手」「他人を頼る傾向がある」という点があげられる。そこで、人との関わりを通して実践的に学びながら表現力や人間関係を築く力を育て、自主性を育てる手立てとしてキャリア教育が効果的ではないかと考えた。

2 ふるさと・キャリア教育を始めるにあたって

国の施策や「大館ふるさと・キャリア教育」の趣旨を踏まえ、さらにキャリア教育の視点でのふるさと教育を意識し、本校では児童一人一人が見て、聞いて、触って、味わって、感じて等々の五感を使った体験を通して、キャリア発達を促す教育活動を展開することにした。



【枝豆の植え付け】

3 なぜ、枝豆の栽培なのか

十二所地区は曲田聖堂や城跡などの名所旧跡、温泉や福祉エリアなどの施設がある他、ネギや果物などの栽培が盛んな農村地域である。この様な地域の特色を生かし、五感を使った体験をさせたいと考え、農業生産的活動に取り組むことにした。そこで、「陽気な母さんの店」の方の助言をもとに、秋田県で力を入れている枝豆の栽培に取り組むことにした。

4 枝豆栽培を通したキャリア発達

キャリア教育を生き方指導であると考え、職場見学や体験だけではなく、活動の事前と事後を充実させたり、他の活動と関連付けたりすることで子どものキャリア発達を促したいと考えた。活動の視点として考えたことは次のようなことである。



【発声・話し方講習会】

(1) 活動を通して様々な人々と関わり合うこと

- ① 仕事への思いや工夫を知る。
- ② 大人が働いている姿を目にすることで仕事への情熱を感じ取る。



【デザイン講習会】

(2) 働くことの意義を理解すること

- ① 働くことへの満足感や充実感を得る。
- ② 他者との協調性や社会性を身に付ける。
- ③ いたわりの心や苦勞を知る。
- ④ 収穫の喜びや達成感を得る。



【プリン作り】

5 活動のねらい

- (1) 豊かな人間関係の構築（コミュニケーション能力の向上）
- (2) 仕事への理解や働くことへの意欲の向上（好ましい勤労観、職業観の獲得）
- (3) 夢や希望、憧れなどのイメージの獲得（漠然としたものから具体的なものへ）

6 活動の実際

(1) 活動をすすめるために

① 総合的な学習の時間を使って活動に取り組んだ。

② 外部講師の活用

ア 陽気な母さんの店の方々…枝豆栽培の指導と補助、
製品作りの指導と補助

イ フリーアナウンサー(石川さん)…発声と話し方講習会

ウ ゼロダテアートセンター(石山さん, 高橋さん)…商品ラベルのデザイン講習会

エ 子供服店経営者, 元空港勤務(菅原さん)…接客・接客講習会



【産業祭でのチラシの配布】

(2) 子どもたちの意欲の喚起

子どもの意欲を高めるために、枝豆栽培に関連して次のような工夫をすることにした。

① 食べ物を作ることにし、各学級でアイデアを出し合い、その中から決めた。

○子どもたちの意見…プリン, きな粉, ずんだ, 納豆, せんべい等々

○決定した食べ物…プリン, きな粉

② 成章フェア(枝豆の製品の販売)の開催

自分たちで試食するだけでなく、販売することで
さらに目的意識をもたせた。



【成章フェア】

(3) 活動の分担と担当

① 枝豆の栽培から収穫まで…3年生～6年生

② 成章フェアに向けた活動

ア 地域の紹介(地域学習として取り組んだものを活用した)…3年生～6年生

イ 商品名の募集(全校児童と保護者を対象に行った)…4年生

ウ 商品ラベル作り(きな粉…3年生, プリン…4年生)

エ プリンの材料準備(さや取り, 皮むき)…4年生～6年生

オ 商品ラベル貼り, プリン作り…5, 6年生

カ 成章フェアへの参加(圏域産業祭18名, 陽気な母さんの店店頭市8名)

7 成果と課題

(1) 成果

① 子ども…様々な人々と接したことで、会話したり受け答えしたりする対話力や対人関係力などが向上し、コミュニケーションの取り方が上手になった。また、様々な仕事やその仕事に関わっている人々の思いを知ったことで、夢や憧れを具体的なイメージとしてもつことができた。

② 職員…試行錯誤しながらの取組であったが、子どもたちに学ぶ楽しさと達成感を味わわせることができ、今後の財産にすることができた。また、地域の教育力活用により、専門的な指導を実践することができた。

(2) 課題

① 子どもたちの人間関係の構築が枝豆栽培に関する活動場面にとどまったことや、他者へ心を向けることが中心になり自分自身に目を向けさせる場が少なかった。

② 条件を与えるなど、子どもが考える場面を与える必要があった。また、活動の区切りに評価を行いフィードバックさせることで、さらに充実した活動にしていきたい。